

A 13 未婚者および既婚者の結婚観(3) — 結婚遅滞要因の検討 —

お茶の水女大家政 湯沢 雅彦
戸板女子短大 ○久保 桂子

東洋英和女大人文 川崎 末美
ライフデザイン研 林 千鶴

<目的> 昨年報告した未婚者および既婚者の結婚観 — 電機メーカー従業員の場合 — (1) (2) にひきつづき、本報告では、晩婚化動向の検討のために、分析対象の中心を30歳代男性に絞り、結婚遅滞をもたらす要因を明らかにする。

<方法> 質問紙による調査および面接調査を実施。調査時期は1990年8月。調査対象はP社組合員。回収率は66%で、有効票数は未婚男性1395票(内30歳代240票)、既婚男性1500票(同759票)。30代の未婚率は24%、職種は技術52%、製造14%、事務15%である。

<結果> ① 職場環境は結婚遅滞に大きく影響を及ぼしている。ア. 職場の女性従業員数の比率の高い製造職に比べ、その比率の低い技術職の方が未婚率が高い。イ. 製造職の既婚者に比べ、技術職の既婚者の職場結婚の比率は低く、技術職の方が職場での出会いの機会が乏しい。ウ. 製造職に就くことが多い高卒男性よりも、技術職に就くことが多い大卒男性の結婚が遅れる傾向がみられる。② 家族関係要因では、きょうだい構成は結婚遅滞に若干影響を及ぼしている。一人っ子・長男の方が、次男以下に比べ未婚率が高い。しかし、家族からの結婚勧奨の有無や、居住形態と結婚遅滞との関連はみられない。③ 事業所所在地の地域環境と結婚遅滞との関連はみられない。ア. もちろん、大都市にある事業所の未婚率が最も高く、次いで都市近郊、地方の順であるが、大卒者のみを比較するとほとんど差はみられない。先の地域差は大都市に大卒者が多いためである。イ. 職場、学校以外の出会いの場である社外サークルや通勤途中、街なかでの配偶者との出会いは、どの地域でも既婚者の1割前後にとどまり、地域差はみられない。